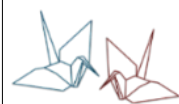


# 未来に向かって伸びる鶴嶺の子 鶴小だより 11号

茅ヶ崎市立鶴嶺小学校  
校長 日高 大司郎  
令和6年11月1日発行



## 旧正門、知っていますか？！

今回は、皆様にも知っていただきたい、学校にある昔使われていた正門について書こうと思います。

この門（旧正門）、どの辺りにあるかあるかご存じですか。知らないという方も多いかもしれませんね。百年桜の北側に立っています。

旧正門は、鶴嶺小の中で一番古い建造物です。市内の学校を見回してみても、最も古い門柱である可能性が高いようです。残念なことに、旧正門についての記録は、ほとんど残っていません。本校にご勤務されていた鴨志田 聡先生が、学校にある資料等をあたって、状況証拠を集め設置された年などを推定してくださっています。

それでは、鴨志田先生のレポートを抜粋して読んでみましょう。

「創立四十年記念誌 茅ヶ崎市立第二小学校」（昭和23年発行）の中で、茅ヶ崎郷土会会長を務められた萩園の野崎薫さん（大正4年卒業）が、当時の学校敷地と旧正門について回想されています。

「校舎と運動場の間は往来になって居て、人や荷車が時々通る。～中略～ 震災後、正門は現在のところに移り（今の旧正門の位置）、門柱もコンクリートの頑丈なものに立てかえられた。」

旧正門は、大正12年の震災後に現在の位置に建てられたようです。でもこれだけでは、建てられた年を絞ることはできません。そこで手がかりになるのが、現正門（北門）の内側に埋め込まれた記念プレートです。「記念 昭和四年三月高等科卒業生」と記されています。という

ことは、旧正門は大正12年の震災後から昭和4年以前に建てられたものということになります。さらに、昭和8年撮影の旧正門前のスロープのひび割れ（右上に貼った写真）をみると、その状態から大正13年～15年あたりまで築年がさかのぼる

可能性があります。

鴨志田先生のレポートの中には、野崎さんのお



話を裏付ける、昔の学校敷地図も紹介されています。下の2枚の絵図を見てください。上の地図が大正10年、下の地図が大正11年の

ものです。

上の地図と下の地図では、道の位置が違います。校舎と運動場の間にあった道（回想の中の往来です。）が、校舎と運動場がつながったことで、八幡宮の池側に付け替えられています。

この絵図には裏書きがあり。校庭の中を通っていた道が、教育活動の支障となっていたこと、予算がついて大正11年4月にやっと下の図のように竣工したことが書かれていました。野崎さんの回想とこの地図を合わせて考えると、学校敷地の一体化の工事（道路の付け替え工事）と旧正門が位置を変えて建てられたことがつながってきます。この工事がなければ、旧正門が今の位置に建てられることはなかったはずです。

古ぼけて使われていない門ですが、そこには学校の歴史につながる事実が隠されていました。旧正門が建てられた時期は、未だ特定できていません。しかし、貴重な文化財であることは間違いなくと考えています。

現在の旧正門の写真をもう一度見てください。緑のネットを被っています。倒壊の心配はないものの、表面が剥落する危険があるので処置をしています。大事にしていきたいという気持ちの一方、安全を考えると、どうすべきか迷ってしまいます。文化財として広く公開するにしても、環境整備が必要になるでしょう。茅ヶ崎市が保存に向けて動くことも現段階では難しいようです。

どのようにしていくのがよいのか、保護者の皆様や地域の皆様と一緒に考えていきたいと思っています。興味をもたれた方は、是非学校にご一報ください。TEL 85-3155

